

特集 青汁

## 主要企業動向

### 酵素活性のある“大麦若葉エキス”を差別化ポイントに展開

#### 日本薬品開発

日本薬品開発㈱(兵庫県伊丹市)は、新鮮な九州産の大麦若葉を搾汁し、独自の「活性保存製法」により、素材そのものの色や味、香り、栄養素や有効成分を残したままの“エキス末”を商品化した各種青汁の製造販売している。また、市場に数多くある青汁と差別化できるとして、PB・OEM供給での採用も増えている。

原料として用いる大麦若葉は、原種に近い品種の「赤神力®」。ビタミンやミネラル、フラボノイド、酵素等をバランスよく含むのが特長だ。同社の農事部門である宇佐オーガニックファーム㈱が保有する圃場と契約農家により、農業不使用・有機栽培の原料を安定確保する体制を構築。収穫した若葉は、大分県宇佐市

### DgSで7年連続売上トップ、こだわり抜いた大麦若葉青汁を展開

#### 山本漢方製薬

山本漢方製薬㈱(愛知県小牧市)は、無添加100%の大麦若葉にこだわり、品質改良と美味しさを追求した青汁の製造販売を展開している。主力商品の『大麦若葉粉末100%』は、アミノ酸30%と食物繊維47%を含有。漢方薬と健康茶の製造で培ってきた長年の経験とノウハウを生かし、抹茶風味で飽きのこないシンプル

な味と香りに仕上げている。「継続して貰える商品開発こそメーカーのプライド」と、常に中身を進化させてきた商品は、ドラッグストアルートで7年連続売上トップを記録する大ヒット・ロングセラー商品に成長している。

『大麦若葉粉末100%』の原材料は、中国の契約農場で指定種を用いて無農薬栽培

## 大麦若葉、ケールの2大素材に、

にある工場で、清浄な地下水による水洗いから、搾汁し、繊維を取り除いた後、エキス末化に至るまで厳正な品質管理のもと一貫生産されている。大分工場は健康補助食品GMP適合認定を取得済み。

こうして生まれた同社の主力商品『グリーンマグマ』、『バーリグリーン』、『プログリーン』、『リッチグリーン』は、体感が得られる“本物志向の青汁”として高い評価を得ており、乾燥粉末タイプの青汁と明確に差別化して展開。また医療機関専売品として、大麦若葉エキスに乳酸菌、ビオチン、セラミド含有ビート

抽出物などを配合した『セルメイク』も開発。国から「かかりつけ薬局」としての機能強化が求められている保険薬局などへの提案を進めている。

同社では、青汁製品の機能性研究にも注力。学会発表約101報と論文29報の発表実績を持つ。近年は抗ストレスや抗疲労をテーマに研究を進めている。また、機能性表示食品制度への対応も視野に、ヒト試験によるエビデンスの蓄積や関与成分の特定などを通して、3年以内をメドに届出を行う計画だ。

食品開発展2016出展 ブース:1-021

された新芽のみを使用。担当者が定期的に現場を訪問し、種播や収穫期に立ち会うと共に、品質・安全性を重視した栽培管理を徹底している。収穫された大麦若葉は、高度な衛生管理がなされた加工工場に運ばれ、栄養価が失われないよう、複数の工程を経て、品質・安全管理に万全を期した国内自社工場(ISO22000認証)に運ばれる。自社工場では、医薬品と同等に厳格な品質管理基準(GMP基準)の下、加工から箱詰めまで一貫製造、数々の安全検査を経て出荷している。

機能性研究では、便秘改善やコレステ

ロール低減作用、血流改善作用、体脂肪低減効果、エネルギー産生作用などを確認済み。トクホも取得している。このほか、大麦若葉にエンテロコッカス・フェカリス・FK-23菌とオリゴ糖を配合した『乳酸菌大麦若葉』や『ケール粉末』、『桑の葉粉末』の販売にも注力する。昨年は国内需要に加え、インバウンド需要や対中輸出の伸長もあり、売上高は前年比1.5倍と過去最高を更新。今年に入りインバウンド需要は落ち着いたといわれ、今期は新製品の開発等に取り組んでいく方針。

### 九州産にこだわった青汁受託加工急伸、製造～販売一貫体制でコストダウン

#### 九州薬品工業

九州薬品工業㈱(佐賀県鳥栖市)は、九州産の大麦若葉、ケール、明日葉、ゴーヤなど国産原料にこだわった青汁の受託加工事業が急伸している。

同社の青汁づくりの特長である「高品質でリーズナブル価格」をコンセプトに

した製品開発は各方面から高い評価を受けている。

また、九州内の契約農家で栽培した有機素材、大麦若葉をはじめケール、桑葉、ゴーヤ等の素材を使用した商品開発にも意欲的に取り組んでいる。

2014年に竣工した工場内には、造粒から充填、包装までの設備を完備。国産乾燥野菜チップを殺菌・粉砕する設備も導入した。青汁の生産規模を従来の約5倍に増強するなど、生産体制の強化を進めている。OEMは小ロットから対応する。「九州産青汁発祥の郷」で商標登録を行った。ドラッグストアや量販店向けに提供する商品は低価格、高付加価値を追求しており、グループの一貫した製造から販売体制によるコストダウン化により買い

やすい価格帯で提供できる。

美味しく飲みやすい商品の開発や、生鮮や飲料コーナーでの販売、カレンダータイプの吊り販売の企画などを積極的に提案している。

自社商品は、『九州産野菜青汁』、『国産青汁』、『大麦若葉青汁』などを量販店、配置業、通販ルートで展開する。同社では、「青汁は野菜不足を補うカテゴリーとして定着しており、中高年齢から若年層への購買も広がっている」と分析する。